

《ワルキューレ》の「矛盾」のお話

2021/12/17



雨は晴れました。明日、12月18日（土）は、《ワルキューレ》（全3回）の第2回です。第1幕の終わりの「愛の二重唱」から、そして第2幕へと進みます。引きつづきお話することが、沢山あります。ここでも、物語上での色々な矛盾が明らかになります。それを、ワーグナー自らが、その矛盾を明らかにして、「エクスキューズ」（弁解）をしているところが数々出てきます。それを、ご紹介しましょう。どれも、どの解説書にも書かれていない「隠された矛盾とその言い訳」のお話です。お付き合い下さい。

【矛盾1】「楽劇」は演劇ですから、物語の途中でアリアや重唱が入ることを嫌がります。でも、なぜ、ワーグナーは「愛の二重唱」を加えたのですか？

【真実1】 真実は三つ。

- ① この二重唱の間に情を通じさせるためです。二人は、フンディングに眠り薬を盛って眠らせておいて、時間をかせいだのです。今をおいては機会がありません。それで、ワーグナーは、ここで「愛の二重唱」を歌わせてそのことを暗示したのです。
- ② フリッカがいかに反対しようとも、二人が本当に愛しあっていることを示すためです。結婚の契約よりも、真実の愛の方が大事だということ

とを現すために、熱烈な愛の叫びを二人に歌わせたのです。

- ③ オペラはお芝居だと思っている観客でも、感動的なきれいな歌を望んでいることをワーグナーは知っています。それで、観客へのサービスとしてこの「愛の二重唱」を聞かせたのです。むしろ、ワーグナーは、類い稀なる「メロディー・メーカー」です。感動的で、きれいです。

【矛盾2】 ヴォータンは、ジークリンデのお腹の中にジークフリートが宿っていることを知っていたのですか？

【真実2】 真実は二つ。

- ① 知らなかったのです。ヴォータンはまだ、ジークムントに「指環奪還」の期待をもっています。霊剣を手にした彼が、ファフナーを倒して指環を取りもどせると思っているのです。そのため、次善策のジークフリートのことなど考えてもいないのです。それで、折れたノートゥングを抱えたジークリンデを乗せて逃げるブリュンヒルデを執拗に追いかけるのです。
- ② でも、全知全能の神であるヴォータンが、ジークフリートのことを知らないのは矛盾です。フリッカとの約束で、自らがジークムントをあきらめたヴォータンですが、ここで「指環奪還」をあきらめるわけがありません。もう、次の手が打ってあるのです。

【矛盾3】 ヴォータンは、霊剣ノートゥングを、なぜ、直接、ジークムントに渡さなかったのですか？

【真実3】 真実は三つ。

- ① ジークムントの勇気を試すためです。霊剣は、勇者がもって初めて効力を発揮します。ヴォータンは、ジークムントがどれだけ成長したかを試すために、わざと、敵方の家のなかにノートゥングを置いておいたのです。
- ② フリッカに、ヴォータンがすべてを謀(はか)っていると思わせないために、ジークムントが自分で霊剣を探し当てたようにするためです。
- ③ 「危急のときには武器を与える」というジークムントとの約束を果たすためです。

【矛盾4】 ヴォータンと妻フリッカとの間に、結婚についての問答「契約か、愛か？」が始まります。なぜ、ヴォータンが負けたのですか？

【真実4】 真実は六つ。

- ① ヴォータンはフリッカに嘘ばかりいいます。でも、フリッカはだまされません。いつもヴォータンのあとをつけて見張っていたからです。それで、ヴォータンの嘘をすべて暴いて見せたからです。
- ② 世の亭主は、どんな理不尽な意見であっても、女房の「正論」には敵わないからです。最初から勝負はついていました。[資料:31頁]
- ③ まず、神々にとって「契約」が一番大事であることをヴォータンも知っていたからです。フンディングとジークリンデは結婚の契約をしていました。それにもかかわらず、二人の兄妹は不倫を働いたのです。弁解の余地はありません。
- ④ 近親相姦は罪深いからです。

- ⑤ ここにもまだ、「愛を拒絶する」という指環の呪いが降り懸かっているからです。
- ⑥ もし、ジークムントが勝利を納めれば、人間が神々に取って代わることになるからです。これは、ヴォータンの望むところではありません。

【矛盾5】なぜ、ヴォータンはブリュンヒルデに「指環奪還計画」を打ち明けたのですか？

【真実5】 真実は三つ。

- ① ヴォータンは、観客に「昔語り」を聞かせるためと自分の悪行も含めてこれまでの行為を初めて告白するためです。この部分は、ワーグナーが台本作者としての「禁じ手」をつかいました。普通なら登場人物のモノローグになるのですが、それではお芝居とし不自然感を免れません。それで、ブリュンヒルデを相手にして、心の中を打ち明けたのです。ここにおいて、これまでのヴォータンの行為の真実がすべてあきらかになります。「権力得ても愛は捨てなかった。だがアルベリヒは権力と愛を分断した。ラインの黄金で権力を得るために指環を作ったが私はそれを奪い、ラインの乙女たちに返さず、城の支払いに充てた」と自らが招いた災厄を述べるのです。過去についても語り、未来についても語ります。また、ワルキューレたちの正体についても教えてくれます。全体の物語を知る上で、貴重な昔話りの「独白型対話」です。ただ、ヴォータンの愚痴を黙って聞いていなければならないブリュンヒルデと観客こそ、良い迷惑です。でも、これがないと、物語が繋がりません。我慢して、お聴き下さい。
- ② ヴォータンは、指環奪還に、ほとんど絶望していたからです。信頼している娘のブリュンヒルデに、ついに、弱音を吐きました。「神は心の秘密をバラしてはならない」という掟を破ったのです。それで、ブリュンヒルデ自らが、「私はヴォータンの娘であり、奴隷なのですから、あなたの『意志』（英語では will, ドイツ語では Willen) そのものものです」とヴォータンを説得します。それで、ヴォータンもついに、「お前に話しているようだが、これは私自身との対話に過ぎない」といって話し出すのです。「権力を得ることに努めた。不誠実な行いもし、数々の嘘も言ってきた。災いの種を蒔くような契約もした」と告白するのです。
- ③ 一度は、ジークムントを助けるように命じたので、こんどは、ブリュンヒルデに新しい命令を守るように念をおすためでした。

【矛盾6】ブリュンヒルデはなぜヴォータンを裏切ったのですか？ 真実は三つ。

【真実6】 真実は三つ。

- ① 兄妹の愛に感動したからです。ブリュンヒルデも、ヴォータンとおなじで、《ニーベルングの指環》の登場人物のなかでも「愛」を知るひとりです。
- ② ヴォータンの「指環奪還」の真の真意を知っているからです。ジークリンデのお腹の中にいるジークフリートだけが、それを可能にすることが出来ると知ったのです。
- ③ 自分だけが、ヴォータンの唯一の「意志」であることを自覚したからです。「ここが自分の出番だ」と自覚したからです。ブリュンヒルデの

活躍が始まります。

まだまだ、楽しみなシーンがつづきます。 暖かくしてお出かけください。

都築正道

明日で、オペラサロンも、今年最後です。 みなさま方には、良いお年をお迎え下さい。今年一年も、コロナ禍で大変でした。でも、みなさまのお心配りや医療体制のおかげで、感染せずに健康でいたのおかげで、ゆっくりと、のんびりした一年がすごせました。人生、得難い自由な時間が持てて、家族の仲も、友だちの仲も、色々な思索や事柄も、理解や関係が深まりました。振り返ってみれば、私のようなおとなしい塾居囚人にとってはいい一年でした。ありがとうございました。